

公益信託世田谷まちづくりファンド

第23回助成事業 審査講評

災害対策・復興まちづくり部門

<1 福島の子どもたちとともに・世田谷の会>

- ・発表を拝聴し、活動を通じて市民のネットワークの編み目がぐんぐん広がってゆくのを見て取れました。そしてそのようなネットワークは政府や行政による支援では目が行き届かない機微に対処可能な力を持つということも強く実感できました。私としては、災害時であるなしに関わらず、市民が繋がることの意義を再認識することができて大変勇気づけられました。まだまだ終わりが見えない状況だと思われませんが、活動を継続進化させていただき、被災地に元気を取り戻し続けていただければと思います。
- ・福島の被災者の支援については、緊急避難的な支援から、被災地の方々自身が自主的なネットワークをつくり必要な仕組みを提案するための支援へとシフトしていく時期にきていると思います。その仕組みづくりの提案は、世田谷区民にとってもいずれ必要なものに違いありません。また、この活動を継続することで広がったさまざまな団体との関わりと協力（ドライビングスクールマイクロバス・大学の宿泊施設）も、すでに貴重な仕組みです。こうしたことを整理して、ぜひ世田谷区内の関係者に提案していただきたいです。
- ・この活動が、現地の様々な人のつながりやアクションにつながっていると聞いて、強く感銘を受けました。地域は、一つの事業が課題解決するのではなく、多様な人たちの行動の相乗効果で変わっていくのであり、それら全体の構造のなかで事業評価をすべきと改めて思いました。ぜひ今年も活動をひろげてください。
- ・ネットワーク力の強さに驚きました。居ながらスタイルから現地での場づくりに広がっているということで、活動の発展も素晴らしいと思います。今後も活動の継続を通して、世田谷区民の参加の輪を広げていただくことを期待します。
- ・充実した活動内容を毎年、維持することは大変な努力が必要かと思います。その活動を支える豊かな組織力は世田谷区に限らず福島にも及んでいることは高く評価できます。福島の親子の受け入れ側も多岐に渡り、その支援に多くの学生がボランティア

で参加していることも活動の裾野の広さを感じます。震災後、あらためて「人と人」との繋がり的重要性が叫ばれています。このグループの活動は、福島と世田谷のさらに多くの人々を繋げ、福島子ども達を支えることが期待できる内容で期待できる内容だと思います。

- ・プレゼンテーションを伺うたびに、内容が進化していて素晴らしいなと感じます。福島の子どもたちとともに、でしか出来ない連携を実現されている様子はさすがだなと感じます。息の長い活動が求められていると思いますし、それが結果として必ず世田谷の未来の財産になると感じます。引き続き被災者に寄り添った活動を行われることを期待しています。
- ・春と夏にすっかり定着した活動も世田谷区内と福島の多くの団体が結集し、安定した運営体制となっているようで、世田谷区民が誇りにしている活動だと思います。原発事故以降の子供の健康不安は日本中の子供の問題ですし、終焉のない課題に息の長い取り組みをお願いします。
- ・素晴らしい活動が継続、発展し、本当に頭が下がる想いです。寄付金も集まってきているようですが、さらに活動資金が確保でき、今後も継続していくことを願っています。

< 2 遊びとまち研究会 >

- ・防災という、いつ起こるか分からない災害に関心を持ち、具体的な備えのアクションを起こすことは本当に難しいことだと思います。他方で、防災において最もポピュラーな「訓練」は、皆が必要であると頭で理解していても、意欲的に参加する人は未だ少数だと思われます。本企画における、防災シミュレーションゲームは、そういった現状を変えたためのツールになる可能性があると感じました。皆が積極的にやりたくなるようなゲームの開発を期待しています。
- ・「世田谷発そなえ→復興ゲーム」の開発に期待します。私のゼミでも被災地支援ボランティアに行った学生たちが「防災家族会議」というゲームを考えて大学でワークショップを実施し、好評でした。シミュレーションをしながら災害や防災を考えることは、だれもが参加できる体験型のツールであり、立場の違う人たちになりきることも興味深いですね。災害が起きたときの学校施設の役割を考えたときには、やはり学校の先生たちとの連携は欠かせないと思います。太子堂小や三宿小はそのモデル役として貴重な学校です。

- ・ゲームの開発は非常におもしろいと感じました。重要なのは、設計とどう進めるかの具体的なスケジュールと体制、完成後にどうそれを生かしていくかと思います。4年目ということで難易度の高い企画になっていますが、ぜひ成功させていただきたいと思います。
- ・「世田谷発そなえ→復興ゲーム」は、新しい防災学習のツールとしてとても可能性があると感じました。太子堂地区に限らず、広く区民や学校に伝わっていくことを期待します。
- ・学校に限らず、各地域や家庭でも防災教育はその充実が最も期待されています。その啓発のための、今までの、被災地と世田谷区の小中学校とのワークショップによる活動以外に、今年度の活動の特徴になる「世田谷発そなえ→復興ゲーム」は大変興味をもて、期待できます。特に、「仙台発そなえゲーム」との関連から、今まで以上に世田谷と被災地の関連が深まる他、被災地での活動で得られた知識・体験をこのゲームを通して区内の地域防災に還元しようと努力している姿は評価できます。
- ・太子堂で培われた実績を十分に活かした活動を展開されていると感じます。活動を通じて、一層まちづくりの担い手、とくにファシリテーターやコーディネーションを得意とする方の育成につなげていって頂きたいと感じます。引き続きの活動の継続に期待しています。
- ・住民によるまちづくりのモデルケースという歴史を担ってきた太子堂地区の新しい取り組みに、住民の底力を感じました。専門家の力も借りて、「復興ゲーム」の作成とともに、運用のためのファシリテーターの育成もお願いします。
- ・復興ゲームの特許を取得するぐらいの意気込みを持って、良いものができるよう頑張ってください。作成後、活用が普及すれば、大きな活動資金になると思います。